

事業名 小松川自然地へのアダプト制度導入事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上～300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>① 参加者数の飛躍的増加 参加者数 1,350 を目指し、2,318 を達成（目標の 1.7 倍）</p> <p>② 企業の参加拡大 企業参加延べ 10 回を目指し、11 回を達成</p> <p>③ 外来種繁茂エリアの減少 2 地点で要注意外来種セイタカアワダチソウを完全に除草し、企業参加の除草地を加え計 7,700 m²の在来種を主とする草地を創出した。</p> <p>④ アダプト制度導入、アダプト看板設置 国土交通省を動かしアダプト導入・広報機能付きアダプト看板設置を果たした。看板への企業メッセージ掲示による民間資金活用は成らなかったが、市民・民間参加の自然地管理の基礎を築き、看板に寄らない企業寄付を実現した。</p>	5
2	市民性	<p>2011 年度荒川クリーンエイド・フォーラム(以下 ACF)単体による推進の際は、企業参加が主で、市民参加は 17.4%であった。2012 年度は、学校を含め市民の参加が 54.8%に向上した。市民による一定の評価が得られたものとする。学校・地域親子の呼び込みには成功。小松川平井地区連合町会、江戸川総合人生大学（社会貢献関心層）に参加を呼び掛けたが、個人数名の参加に留まり、組織の動きには至らなかった。活動の価値に賛同いただいたが、河川管理を自分事と捉え難い点、既存の年間行事の中に組み込むことが難しい等が原因。既存の行事と併せた参加等の提案を重ね、時間をかけて参画を進める。</p>	3
3	波及効果	<p>①企業メリットを追求した提案、「参加」というハードルの低い関与からスタートしたことにより、多くの企業参加を得た点、②自然体験の乏しい地域住民に対して、まずは自然の魅力を再発見しながら徐々に保全管理への関心を高めるようなプログラムを用意した点、③必要な能力・実績を持つ少数の団体による協議体により機動力ある推進ができた点、④河川行政による既存の枠組みの打破を目指し、国は「切り開く」姿勢にはやや欠けるが、最終的には地域や市民の要望を無視できない、時間をかけて市民・民間参加の手法を共有していくことが重要と確認した点が、波及可能と考える。</p>	3
4	継続性	<p>アダプト導入に伴い、江戸川区は第三者となる必要から、2013 年度より当協議会構成員でなくなる。4 団体で協議会を継続する。</p> <p>今後の運営方針としては、情報・人的資源の交流、機能分担等ゆるやかな連携を図りながら、協議会構成団体、参加団体がそれぞれの活動を主体的に豊かにしてゆく形を模索する。</p> <p>資金面では、看板による民間資金活用は達せられなかった。企業の継続参加は見込まれているが、地域・学校参加の活動については、一部企業寄付が確定し、新たな資金調達の見出せたものの、凡そ助成金のほか運営資金の用途は立っていない。企業寄付など安定的な資金調達を模索する。</p>	2

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

5	マルチステークホルダー・プロセス	協議会は、プログラム運営に長けた市民団体、企業・国土交通省との連携実績のある ACF に、市民の立場からの提言力に長けた江戸川・生活者ネットワークが加わり、新しい公共の視点、国との協議における推進力を得た。江戸川区は広報・看板設置に尽力した。必要な機能を備えたコンパクトで機動力ある協議体によりプログラム運営、国土交通省との協議を推進した。企業をはじめとするその他の主体は、参加・協力という形でスタートした。今後は、新たな団体・企業の参加・協力・協議会への加入を進め、利用の幅を広げ多様な価値観を導入すると共に、ゆるやかな連携による運営体制を作る。	3
---	------------------	--	---

合計点

16

ランク

A